

# 1985 年大会記録

## 国際

オーストラリア・ゲームズ=フリースタイル(1月28日、オーストラリア・メルボルン)

ン)

48kg 級 矢作章(ユナイテッドスティール) = 優勝、 52kg 級 文田敏郎(山梨・峡北高教) = 優勝、 57kg 級 鈴木康文(自衛隊) = 優勝、 62kg 級 橋浦晋(鳥取・鳥取工高教) = 2位、 68kg 級 坂口秀春(自衛隊) = 2位、 74kg 級 佐川正吉(自衛隊) = 優勝、 82kg 級 岸本茂範(岸本牧場) = 優勝

ロジャー・クーロン杯国際大会(2月9日、フランス・クレルモンフェラン)

《女子》 52kg 級 大島和子(東京・城西高教) = 2敗

ワールドカップ=フリースタイル(3月30~31日、米国・トレド)

3位(3勝2敗)

- 1回戦 日本 [1 - 9] ソ連
- 2回戦 日本 [2 - 8] 米国
- 3回戦 日本 [7 - 3] キューバ
- 4回戦 日本 [6 - 4] カナダ
- 5回戦 日本 [9 - 1] エジプト

《故人成績》 48kg 級 大黒智明(大東大) = 3位、 52kg 級 佐藤満(日体大研) = 優勝、 57kg 級 角地山豊(日大) = 3位、 62kg 級 赤石光生(日大) = 2位、 68kg 級 原喜彦(日体大研) = 4位、 74kg 級 樋口直己(奈良県教委) = 5位、 82kg 級 安田紀久雄(山梨県教委) = 3位、 90kg 級 保坂竹道(自衛隊) = 4位、 100kg 級 本田多聞(日大) = 3位、 100kg 級以上 = 派遣なし

西ドイツ国際大会=グレコローマン(3月30~31日、アッシャムヘンブルグ)

48kg 級 斉藤育造(和歌山県教委) = 2位、 52kg 級 河本勲(自衛隊) = 4位、 57kg 級 我妻雄比古(日体大) = 6位、 62kg 級 出口泰三(国土館大) = 二失、 68kg 級 大久保康裕(自衛隊) = 二失、 68kg 級 三宅靖志( ) = 二失、 74kg 級 谷一郎(群馬・沼田高教) = 6位、 82kg 級 向井孝博(自衛隊) = 二失、 90kg 級 東出徹(奈良橿原体育館) = 二棄

### スーパーチャンピオンカップ(5月5~6日、東京・代々木競技場第2体育館)

《フリースタイル》 48kg級 小林孝至(日大)=優勝、 52kg級 佐藤満(日体大大学院)=優勝、 57kg級 角地山豊(日大)=3位、 62kg級 赤石光生(日大)=2位、 68kg級 原喜彦(日体大)=3位、 74kg級 樋口直己(奈良県体協)=3位、 82kg級 安田紀久雄(山梨県教委)=3位、 90kg級 太田章(早大教)=2位、 100kg級 本田多聞(日大)=3位、 130kg級=出場なし

《グレコローマン》 48kg級 斉藤育造(和歌山県教委)=2位、 52kg級 河本勲(自衛隊)=優勝、 57kg級 我妻雄比古(日体大)=3位、 62kg級 出口泰三(国土館大)=3位、 68kg級 大久保康裕(自衛隊)=3位、 74kg級 谷一郎(群馬・太田工高教)=3位、 82kg級 向井孝博(自衛隊)=2位、 90kg級 東出徹(奈良橿原体育館)=3位、 100kg級 福辺雅彦(奈良教育センター)=3位、 130kg級 安藤正哉(安藤コンクリート)=3位

### コンコード国際大会=グレコローマン(5月25~26日、米国・コンコード)

48kg級 斉藤育造(和歌山県教委)=2位、大橋正教(山梨県協会)=3位、 52kg級 藤波俊一(日体大)=優勝、 57kg級 黒飛健(自衛隊)=3位、 62kg級 西口茂樹(日体大)=6位、 68kg級 湯浅邦茂(山梨県協会)=二失、 74kg級 伊藤広道(自衛隊)=5位、 82kg級 屋比久保(国土館大) 90kg級 東出徹(奈良県協会) 100kg級 近藤務(自衛隊)

### 世界エスポアール選手権(7月、米国・コロラドスプリングズ)

《フリースタイル》 48kg級 喜多龍昭(日体大)=6位、 52kg級 山下浩(日体大)=二失、 57kg級 森下敏清(日体大)=4位、 62kg級 安達巧(日体大)=三失、 68kg級 田中秀人(日体大)=二失、 74kg級 高橋信明(専大)=二失、 82kg級 伊藤敦(日体大)=4位、 90kg級 豎山保文(自衛隊)=6位、 100kg級 草野敦(国土館大)=二失、 130kg級 本間和吉(専大)=6位

《グレコローマン》 48kg級 大橋正徳教(山梨学院大)=4位、 52kg級 丹治尚弘(国土館大)=二失、 57kg級 渡口彦康(自衛隊)=二失、 62kg級 足立勝司(山梨学院大)=6位、 68kg級 三宅靖志(東海大)=2位、 74kg級 関川清人(日大)=二失、 82kg級 小林希(日体大)=二失、 90kg級 武藤光一(日体大)=二失、 100kg級 花城安明(自衛隊)=二失、 130kg級 奈良英則(日大)=二失

### 世界選手権=グレコローマン(8月8~11日、ノルウェー・コルボトン)

48kg級 斉藤育造(和歌山県教委)=一棄、 52kg級 宮原厚次(自衛隊)=4位、

57kg 級 三宅正徳（岐阜・岐阜養護学教）= 5 位、 62kg 級 芦野茂美（日体大）= 二失、 68kg 級 作田勝広（自衛隊）= 三失、 74kg 級 伊藤広道（自衛隊）= 二失、 82kg 級 向井孝博（自衛隊）= 9 位、 90kg 級 森山泰年（自衛隊）= 四失、 100kg 級 藤森安一（警視庁）= 二失、 130kg 級 出口一也（国士館大）= 二失

#### **アジア・ジュニア選手権（8月19～21日、東京・代々木競技場第2体育館）**

《フリースタイル》 48kg 級 笹山秀雄（青森・光星学院高）= 2 位、 52kg 級 金浜良（日大）= 優勝、 56kg 級 佐々木一郎（茨城・霞ヶ浦高）= 2 位、 60kg 級 伊藤琢巳（中大）= 優勝、 65kg 級 木村孝弘（茨城・土浦日大高）= 4 位、 70kg 級 高野謙二（茨城・土浦日大高）= 4 位、 75kg 級 岡部政浩（東京・東京工高）= 3 位、 81kg 級 本田大（茨城・土浦日大高）= 2 位、 87kg 級 仁田昭彦（群馬・館林高）= 4 位、 87kg 以上級 篠木英治（群馬・館林高）= 5 位

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 関昌弘（群馬・館林高）= 3 位、 52kg 級 中村和正（神奈川・湘南通信制）= 3 位、 56kg 級 榎田貢（東洋大）= 3 位、 60kg 級 小谷敬一（群馬・関東学園高）= 2 位、 65kg 級 小泉徹（中大）= 3 位、 70kg 級 寺沢淳（茨城・霞ヶ浦高）= 3 位、 75kg 級 音田佳孝（鳥取・倉吉工高）= 3 位、 81kg 級 富田謙二（茨城・霞ヶ浦高）= 3 位、 87kg 級 林原祐二（鳥取・赤碕高）= 3 位、 87kg 以上級 関沢一人（茨城・霞ヶ浦）= 2 位

#### **世界選手権=フリースタイル（10月10～13日、ハンガリー・ブダペスト）**

48kg 級 入江隆（自衛隊）= 二失、 52kg 級 佐藤満（日体大大学院）= 3 位、 57kg 級 朝倉利夫（国士大教）= 4 位、 62kg 級 栄和人（奈良県教委）= 5 位、 68kg 級 五位塚悟（山梨・韮崎工高教）= 二失、 74kg 級 平山宣伸（日体大）= 二失、 82kg 級 菊地隆（和歌山県教委）= 三失、 90kg 級 保坂竹道（自衛隊）= 三失、 100kg 級 本田多聞（日大）= 二失、 130kg 級 大川浩一（警視庁）= 7 位

#### **ワールドカップ=グレコローマン（11月8～9日、スウェーデン・ルンド）**

5 位（4 敗）

- 1 回戦 日本 [ 0 - 10 ] ソ連
- 2 回戦 日本 [ 1 - 9 ] スウェーデン
- 3 回戦 日本 [ 1 - 9 ] キューバ
- 4 回戦 日本 [ 2 - 8 ] 米国

《個人順位》 48kg 級 大橋正教（山梨学院大）= 4 位、 52kg 級 大川秀和（奈良県教育センター）= 2 位、 57kg 級 中留俊司（日体大）= 5 位、 62kg 級 芦野茂美（日

体大) = 5位、 68kg級 中島光正(とりせん) = 5位、 74kg級 伊藤広道(自衛隊)  
= 5位、 82kg級 屋比久保(国士館大) = 5位、 90kg級 東出徹(奈良橿原体育館)  
= 4位、 100kg級 = 派遣なし、 130kg級 = 派遣なし

## 国内

### 全国高校選抜大会(3月30~31日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1]青森・光星学院高(5年連続6度目)、[2]茨城・霞ヶ浦、[3]群馬・館林、鹿児島・鹿児島商工

《個人戦優勝者》 48kg級 笹山秀雄(青森・光星学院)、 52kg級 花田秀実(青森・光星学院)、 56kg級 佐々木一郎(茨城・霞ヶ浦)、 60kg級 下沢和也(青森・光星学院)、 65kg級 山口公大(青森・光星学院)、 70kg級 得本啓次(福岡・築上西)、 75kg級 田崎光之(茨城・霞ヶ浦)、 75kg以上級 間山泰範(北海道・岩見沢農)

### 西日本学生春季新人戦 = フリースタイル(5月3日、大阪・桃山学院大)

《優勝者》 48kg級 屋敷宗寿(同志社大)、 52kg級 西川知志(同志社大)、 57kg級 土直博(鹿屋体育大)、 62kg級 海老原寛一(近大)、 68kg級 梅原守(同志社大)、 74kg級 浅井徹(近大)、 82kg級 竹中邦仁(近大)、 90kg級 永井孝治(近大)

フリースタイルのみ

### 東日本学生リーグ戦(5月14~16・23日、東京・駒沢体育館)

《順位》[1]日体大(7年連続9度目)、[2]日大  
(A組)[1]日体大、[2]国士大、[3]東海大、[4]大東大、[5]中大、[6]法大  
(B組)[1]日大、[2]専大、[3]山梨学院大、[4]東洋大、[5]明大、[6]拓大

### 全日本社会人選手権(5月25~26日、神奈川・横浜消防訓練センター)

《団体戦優勝チーム》 官公庁 自衛隊、 実業団 ユナイテッドスティール、 クラブ 奈良クラブ

《フリースタイル優勝者》 48kg級 矢作章(ユナイテッド・スティール)、 52kg級 藤川健治(自衛隊)、 57kg級 鈴木康一(自衛隊)、 62kg級 栄和人(奈良ク)、 68kg級 五位塚悟(山梨・韮崎工高教)、 74kg級 佐川正吉(自衛隊)、 82kg級 菊地隆

(和歌山県教委)、 90kg 級 対馬正敏(自衛隊)、 100kg 級 保坂竹道(自衛隊)、  
130kg 級 大川浩一(警視庁)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 蝦名康一(自衛隊)、 52kg 級 一色啓雅(和歌山ウ)、 57kg 級 大城利幸(自衛隊)、 62kg 級 栄和人(奈良ウ)、 68kg 級 大久保康裕(自衛隊)、 74kg 級 中島則行(長野ウ)、 82kg 級 堅立保文(自衛隊)、 90kg 級 森山泰年(自衛隊)、 100kg 級 藤森安一(警視庁)、 130kg 級 大川浩一(警視庁)

#### **西日本学生選手権(5月24~26日、大阪・大阪府立体育会館別館)**

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 藤粟原亮(南九州大)、 52kg 級 西川史人(同志社大)、 57kg 級 松井信賢(福岡大)、 62kg 級 大河内幸保(福岡大)、 68kg 級 城崎公胤(同志社大)、 74kg 級 恒川寿生(同志社大)、 82kg 級 竹中邦仁(近大)、 90kg 級 笹部文男(福岡大)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 是永順次(福岡大)、 52kg 級 西川史人(同志社大)、 57kg 級 仮屋広和(徳山大)、 62kg 級 福川敦(桃山学院大)、 68kg 級 糸川長武(同志社大)、 74kg 級 恒川寿生(同志社大)、 82kg 級 竹中邦仁(近大)、 90kg 級 杉田直樹(近大)

#### **世界エスポアール選手権代表選考会(6月9~10日、東京・青少年総合センター)**

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 喜多龍昭(日体大)、 52kg 級 山下浩(日体大)、 57kg 級 森下敏清(日体大)、 62kg 級 安達巧(日体大)、 68kg 級 田中秀人(日体大)、 74kg 級 高橋信明(専大)、 82kg 級 伊藤敦(日体大)、 90kg 級 豎山保文(自衛隊)、 100kg 級 草野敦(国土館大)、 130kg 級 本間和吉(専大)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 大橋正徳教(山梨学院大)、 52kg 級 丹治尚弘(国土館大)、 57kg 級 渡口彦康(自衛隊)、 62kg 級 足立勝司(山梨学院大)、 68kg 級 三宅靖志(東海大)、 74kg 級 関川清人(日大)、 82kg 級 小林希(日体大)、 90kg 級 武藤光一(日体大)、 100kg 級 花城安明(自衛隊)、 130kg 級 奈良英則(日大)

#### **東日本学生春季新人戦(6月27~29日、東京・駒沢体育館)**

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 猪狩清一(法大)、 52kg 級 崎口修二(国土館大)、 57kg 級 牛込誠一(東海大)、 62kg 級 川村憲保(日大)、 68kg 級 大谷睦義(大東大)、 74kg 級 下玉利太(日大)、 82kg 級 高木博章(専大)、 90kg 級 高

橋重則（東洋大）、 90kg 以上級 石橋浩一（中大）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 猪狩清一（法大）、 52kg 級 大竹泰志（拓大）、  
57kg 級 小林輝雄（明大）、 62kg 級 木村好男（日体大）、 68kg 級 吉田泰仁（中  
大）、 74kg 級 東出昭（日体大）、 82kg 級 池田伸次（国土館大）、 90kg 級 高橋  
重則（東洋大）、 90kg 以上級 石橋浩一（中大）

#### **西日本学生春季リーグ戦（6月28～30日、大阪・臨海スポーツセンター）**

《順位》[1]同志社大（2季連続7度目）、[2]近大、[3]徳山大、[4]福岡大、[5]  
桃山学院大、[6]関大

#### **全日本選手権（6月28～30日、山梨・山梨学院大）**

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 入江隆（自衛隊）、 52kg 級 佐藤満（日体大大  
学院）、 57kg 級 朝倉利夫（国土大教）、 62kg 級 栄和人（奈良県教委）、 68kg 級  
五位塚悟（山梨・葎崎工高教）、 74kg 級 平山宣伸（日体大）、 82kg 級 菊地隆（和  
歌山県教委）、 90kg 級 保坂竹道（自衛隊）、 100kg 級 本田多聞（日大）、 100kg  
級以上 大川浩一（警視庁）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 斉藤育造（和歌山県教委）、 52kg 級 宮原厚次  
（自衛隊）、 57kg 級 三宅正徳（岐阜・岐阜養護学教）、 62kg 級 芦野茂美（日体大）、  
68kg 級 作田勝広（自衛隊）、 74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、 82kg 級 向井孝博（自  
衛隊）、 90kg 級 森山泰年（自衛隊）、 100kg 級 藤森安一（警視庁）、 100kg 級以  
上 秋山安成（自衛隊）

#### **アジア・ジュニア選手権代表選考会（7月10～11日、東京・青少年総合センター）**

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 山下忍（茨城・霞ヶ浦高）、 52kg 級 金浜良（日  
大）、 56kg 級 佐々木一郎（茨城・霞ヶ浦高）、 60kg 級 伊藤琢巳（中大）、 65kg  
級 木村孝弘（茨城・土浦日大高）、 70kg 級 高野謙二（茨城・土浦日大高）、 75kg  
級 岡部政浩（東京・東京工高）、 81kg 級 本田大（茨城・土浦日大高）、 87kg 級 仁  
田昭彦（群馬・館林高）、 87kg 以上級 篠木英治（群馬・館林高）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 関昌弘（群馬・館林高）、 52kg 級 中村和正（神  
奈川・湘南通信制）、 56kg 級 榎田貢（東洋大）、 60kg 級 小谷敬一（群馬・関東学  
園高）、 65kg 級 小泉徹（中大）、 70kg 級 寺沢淳（茨城・霞ヶ浦高）、 75kg 級 音  
田佳孝（鳥取・倉吉工高）、 81kg 級 富田謙二（茨城・霞ヶ浦高）、 87kg 級 林原祐  
二（鳥取・赤碓高）、 87kg 以上級

### **インターハイ(8月2~5日、石川・志賀町総合体育館)**

《学校対抗戦》[1]青森・光星学院(4年連続6度目)、[2]茨城・霞ヶ浦、[3]岩手・宮古水産、埼玉・埼玉栄

《個人戦優勝者》 48kg級 笹山秀雄(青森・光星学院)、 52kg級 花田秀実(青森・光星学院)、 56kg級 兜森衛(青森・光星学院)、 60kg級 下沢和也(青森・光星学院)、 65kg級 木村孝弘(茨城・土浦日大)、 70kg級 小坂明(青森・光星学院)、 75kg級 田崎光之(茨城・霞ヶ浦)、 75kg以上級 久米田雅勝(青森・光星学院)

### **全国高校生グレコローマン選手権(8月23日、東京・青少年総合センター)**

《優勝者》 48kg級 笹山秀雄(青森・光星学院)、 52kg級 花田秀実(青森・光星学院)、 56kg級 中村吉信(茨城・土浦日大)、 60kg級 山田琢也(京都・宇治)、 65kg級 山口公大(青森・光星学院)、 70kg級 飯沼義仁(茨城・霞ヶ浦)、 75kg以上級 田崎一人(茨城・霞ヶ浦)

### **全日本学生選手権(8月28~31日、東京・駒沢体育館)**

《フリースタイル優勝者》 48kg級 沖山功(日体大)、 52kg級 上島一敏(国士舘大)、 57kg級 森下敏清(日体大)、 62kg級 井村陽三(日体大)、 68kg級 赤石光生(日大)、 74kg級 平山宣伸(日体大)、 82kg級 赤石明雄(国士舘大)、 90kg級 和田正(専大)、 100kg級 本田多聞(日大)、 130kg級 本間和志(専大)

《グレコローマン優勝者》 48kg級 大橋正教(山梨学院大)、 52kg級 藤波俊一(日体大)、 57kg級 我妻雄比古(日体大)、 62kg級 芦野茂美(日体大)、 68kg級 原喜彦(日体大)、 74kg級 平山宣伸(日体大)、 82kg級 赤石明雄(国士舘大)、 90kg級 和田正(専大)、 100kg級 本田多聞(日大)、 130kg級 浅井功(日体大)

### **西日本学生新人戦(9月15~16日、大阪・桃山学院大)**

《フリースタイル優勝者》 48kg級 中島正治(桃山学院大)、 52kg級 波藤正二(南九州大)、 57kg級 市川光徳(桃山学院大)、 62kg級 上月英明(同志社大)、 68kg級 内山一栄(同志社大)、 74kg級 関保則(南九州大)、 82kg級 浅井徹(近大)、 90kg級 竹中邦仁(近大)

《グレコローマン優勝者》 48kg級 中島正治(桃山学院大)、 52kg級 島崎豊(近大)、 57kg級 市川光徳(桃山学院大)、 62kg級 海老原寛一(近大)、 68kg級 内山一栄(同志社大)、 74kg級 梅原守(同志社大)、 82kg級 竹中邦人(近大)、 90kg

級 芳村昌秀 (同志社大)

**全日本学生王座決定戦 (9月27~28日、東京・駒沢体育館) = 決勝成績**

日体大 [6 - 3] 日大

日体大は8年連続9度目の優勝

**東日本学生グレコローマン選手権**

**国体 (10月21~24日、島根・赤碕町農業者TC)**

《成年フリースタイル優勝者》 48kg級 沖山功 (茨城・日体大)、 52kg級 清水清人 (宮崎・日南高教)、 57kg級 朝倉利夫 (東京・国士館大教)、 62kg級 栄和人 (奈良・県教委)、 68kg級 赤石光生 (青森・日大)、 74kg級 平山宣伸 (岡山・日体大)、 82kg級 菊地隆 (和歌山・県教育庁)、 90kg級 有本良好 (和歌山・笠田高教)、 100kg級 本田多聞 (茨城・日大)、 130kg級 森康哲 (徳島・山瀬農協)

《成年グレコローマン優勝者》 48kg級 斉藤育造 (和歌山・県教育庁)、 52kg級 藤波俊一 (三重・日体大)、 57kg級 三宅正徳 (岐阜・大垣養護学教)、 62kg級 長内清一 (青森・三八教育事務所)、 68kg級 森巧 (徳島・国士館大)、 74kg級 谷一郎 (群馬・沼田高教)、 82kg級 向井孝博 (埼玉・自衛隊)、 90kg級 清水輝夫 (群馬・スポーツ振興事業団)、 100kg級 藤田芳弘 (和歌山・穴吹高教)、 130kg級 安藤正哉 (岐阜・安藤コンクリート)

《少年フリースタイル優勝者》 48kg級 笹山秀雄 (青森・光星学院)、 52kg級 花田秀実 (青森・光星学院)、 56kg級 兜森衛 (青森・光星学院)、 60kg級 下沢和也 (青森・光星学院)、 65kg級 木村孝弘 (茨城・土浦日大)、 70kg級 小坂明 (青森・光星学院)、 75kg級 星山親弘 (北海道・岩見沢農)、 81kg級 岡部政弘 (東京・東京工)、 87kg級 尾崎幸雄 (千葉・松戸南)、 87kg以上級 間山泰範 (北海道・岩見沢農)

《少年グレコローマン優勝者》 48kg級 水口康長 (三重・松阪工)、 52kg級 池田敏幸 (鳥取・倉吉工)、 56kg級 藤岡道三 (奈良・添上)、 60kg級 山田琢也 (京都・宇治)、 65kg級 石川宏明 (埼玉・埼玉栄)、 70kg級 飯沼義仁 (茨城・霞ヶ浦)、 75kg級 得本啓次 (福岡・築上西)、 81kg級 本田大 (茨城・土浦日大)、 87kg級 関沢一人 (茨城・霞ヶ浦)、 87kg以上級 神子沢健二 (青森・光星学院)



**東日本学生秋季新人戦（10月30日～11月2日、東京・駒沢体育館）**

《フリースタイル優勝者》 48kg級 東野勝（大東大）、 52kg級 金浜良（日大）、  
57kg級 近浦淳二（日大）、 62kg級 安達巧（日体大）、 68kg級 川原一昭（日体大）、  
74kg級 関川清人（日大）、 82kg級 角崎朋博（日体大）、 90kg級 高木博章（専大）、  
90kg以上級 奈良英則（日大）

《グレコローマン優勝者》 48kg級 平野正春（拓大）、 52kg級 金浜良（日大）、  
57kg級 近浦淳二（日大）、 62kg級 倉館健（日大）、 68kg級 吉田健（日体大）、  
74kg級 高橋信明（専大）、 82kg級 高木博幸（専大）、 90kg級 池田伸次（国士館大）、  
90kg以上級 出口一也（国士館大）

**西日本学生秋季リーグ戦（11月22～24日、大阪・臨海スポーツセンター）**

《順位》[1]同志社大（3季連続8度目）、[2]徳山大、[3]桃山学院大、[4]福岡大、  
[5]近大、[6]名商大

**全日本大学選手権（11月30日～12月1日、山梨・高根町民体育館）**

《優勝者》 48kg級 大橋正教（山梨学院大）、 52kg級 山下浩（日体大）、 57kg級  
角地山豊（日大）、 62kg級 西慎太郎（日体大）、 68kg級 赤石光生（日大）、  
74kg級 平山宣伸（日体大）、 82kg級 赤石明雄（国士館大）、 90kg級 伊藤敦（日体大）、  
100kg級 本田多聞（日大）、 100kg級以上 浅井功（日体大）

《大学対抗得点》[1]日体大（3年ぶり8度目）、[2]国士館大、[3]日大

**全国社会人オープン選手権（11月23～24日、神奈川・横浜市消防訓練センター）**

《フリースタイル優勝者》 48kg級 矢作章（ユナイテッドスティール）、 52kg級 大塚隆弘（ユナイテッドスティール）、  
57kg級 文田敏郎（山梨クラブ）、 62kg級 五十嵐淳一（自衛隊）、 68kg級 湯田善吉（自衛隊）、  
74kg級 杉野浩吉（自衛隊）、 82kg級 和久井始（自衛隊）、 90kg級 安田紀久雄（山梨クラブ）、 100kg級 対馬正敏（自衛隊）

《グレコローマン優勝者》 48kg級 矢作章（ユナイテッドスティール）、 52kg級 木村剛史（自衛隊少年工科学校）、  
57kg級 黒飛健（自衛隊）、 62kg級 大城利幸（自衛隊）、 68kg級 大久保康裕（自衛隊）、  
74kg級 伊藤広道（自衛隊）、 82kg級 福岡浩一（自衛隊）、 90kg級 花城安明（自衛隊）、 90kg以上級 近藤務（自衛隊）